

大分工業高等専門学校 自己点検・評価基準

平成 19 年 4 月～平成 25 年 3 月
自己点検・評価実施委員会

本校が行う自己点検・評価は、目的（学習・教育目標）、学生の受入、教育方法、教育組織（教員及び教育支援者）、教育環境（施設、設備）、学生支援、学習・教育目標の達成、財務、管理運営に関して行うものとし、自己点検・評価基準を以下に定める。

この基準は、5つの目標である「1. 教育に関する目標（5つのサブ目標を含む）」、「2. 研究に関する目標」、「3. 社会との連携や国際交流に関する目標」、「4. 施設整備に関する目標」、「5. 管理運営に関する目標」、及び目標ごとの評価項目から構成される。なお、設定する目標及び項目は、一貫性を保ちつつ時代の要請などを鑑みて必要に応じ見直し等の検討を行うこととする。

1 教育に関する目標

実験・実習・実技を通して早くから技術に触れさせ、技術に興味・関心を高めた学生に科学的知識を教え、さらに高い技術を理解させるという高等学校や大学とは異なる特色ある教育課程を通し、製造業を始めとする様々な分野において創造力ある技術者として、将来活躍するための基礎となる知識と技術、さらには生涯にわたって学力を確実に身に付けさせることができるように、以下のサブ目標及び項目に基づき本校の教育実施体制を整備する。

（1） 入学者の確保

高等学校や大学とは異なる高等専門学校の特性や魅力について、中学生や中学校教員、さらに広く社会における認識を高める広報活動を組織的に展開するとともに入試方法の見直しを行うことによって、十分な資質を持った入学者を確保する。

この目標を達成するため、以下の項目について自己点検・評価を行う。

- ① 現状の分析と課題の把握
- ② 今後取り組むべき事項の検討及び対応策

（2） 教育課程の編成等

産業構造の変化や技術の高度化などの時代の進展に即応した対応が求められる中、地域性や特色、立地条件等に応じた個性ある多様な発展を目指し、自主的・自律的な改革を進める。このため、学科構成を見直し、地域の要請に即応した新分野の学科の設置や

改組・再編・整備を適切に進めるとともに、地域や本校の実情に応じ専攻科の整備・充実を行う。このほか課外活動の振興を図るとともに、ボランティア活動など社会奉仕体験活動や自然体験活動を始め、「豊かな人間性」の涵養を図るべく様々な体験活動の機会の充実に努める。

この目標及び専門学科の「人材養成に関する目的」を達成するため、以下の項目について学科毎に自己点検・評価を行う。

- ① 教育の現状分析と課題及び対応策
- ② 目的達成のため本校独自の特色ある取り組み

(3) 優れた教員の確保と育成

公募制などにより博士の学位を有する者や民間企業で実績をあげた者など優れた教育力を有する人材を教員として採用するとともに、本校以外の教育機関などにおいても勤務経験を積むことができるように多様な人事交流を図る。

また、ファカルティ・ディベロップメントなどの研修の組織的な実施や優秀な教員の表彰を始め、国内外の大学等で研究に専念する機会や国際学会に参加する機会を設けるなど、教員の教育力の継続的な向上に努める。

この目標を達成するため、以下の項目について自己点検・評価を行う。

- ① 教員の学位取得状況などの現状と課題及び対応策
- ② FD 活動の現状と課題及び対応策
- ③ 高専間人事交流制度の利用、在内外留学制度の参加の現状と課題及び対応策

(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム

教育研究の経験や能力を結集して国立高等専門学校の特性を踏まえた教育方法や教材などの開発を進めるとともに、学校の枠を越えた学生の交流活動の活発化を図る。

また、教育方法の改善に関する取り組みを促進するため、特色ある効果的な取り組みの事例を蓄積し、学校全体で共有する。

実践的技術者を養成する上での学習の動機付けを強めるため、産業界等との連携体制の強化を支援するほか、他の大学などの高等教育機関との有機的連携を深める。

この目標を達成するため、以下の項目について自己点検・評価を行う。

- ① 産業界等との連携体制の現状と課題及び対応策
- ② 他の大学などの高等教育機関との連携の現状と課題及び対応策
- ③ 文部科学省支援事業などの公募プロジェクトの取り組み
- ④ 授業アンケートの分析と課題及び対応策

(5) 学生支援・生活支援等

中学校卒業直後の学生を受け入れ、かつ、相当数の学生が寄宿舍生活を送っている本校の特性を踏まえ、修学上の支援に加え進路選択や心身の健康等の生活上の支援を充実させる。また、施設整備面では、特に図書館の充実や寄宿舍の改修などの整備を計画的に進める。各種奨学金制度など学生支援に係る情報の提供体制を充実させる。さらに、学生の就職活動を支援する体制を充実する。

この目標を達成するため、以下の項目について自己点検・評価を行う。

- ① 生活指導・特別教育活動の現状と課題及び対応策
- ② 学寮の現状と課題及び対応策
- ③ 卒業率向上に向けた取り組み
- ④ 学生に対する進路指導の現状と課題及び対応策

2 研究に関する目標

教育内容を技術の進歩に即応させるとともに教員自らの創造性を高めるため、研究活動を活性化させる方策を講じる。

本校の持つ知的資源を活用して、地域を中心とする産業界や地方公共団体との共同研究・受託研究への積極的な取り組みを促進するとともに、その成果の知的資産化に努める。

この目標を達成するため、以下の項目について自己点検・評価を行う。

- ① 教員（技術職員）の研究に関する学術的活動の現状と課題及び対応策
- ② 科学研究費補助金申請・採択の現状と課題及び対応策
- ③ 外部資金（共同研究・受託研究など）受入の現状と課題及び対応策
- ④ 特許の状況と課題及び対応策

3 社会との連携や国際交流に関する目標

地域共同テクノセンターなどの施設や設備の整備を計画的に進めるとともに、本校における共同研究などの成功事例を広く公開する。また、地域の生涯学習機関として公開講座を充実させる方策を講じる。

教員や学生の国際交流への積極的な取り組みを安全面に十分な配慮をしつつ推進する。また、留学生の受入れについては、受入れの推進を図るとともに、留学生が本校や日本の歴史・文化・社会に触れる機会を提供する。

この目標を達成するため、以下の項目について自己点検・評価を行う。

- ① 地域研究連携活動の現状と課題及び対応策

- ② 地域教育連携活動の現状と課題及び対応策
- ③ 国際連携活動の現状と課題及び対応策

4 施設整備に関する目標

先端的技術レベルに対応できる実践的技術者を養成するため、キャンパスマスタープランなどにより、長期的視点に立った学校全体の施設整備計画を策定し、施設整備の充実を図る。

この目標を達成するため、以下の項目について自己点検・評価を行う。

- ① 施設・整備の現状と課題及び対応策

5 管理運営に関する目標

高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与費相当額及び各年度特別に措置しなければならない経費を除き、運営費交付金を充当して行う業務については、高専機構中期目標の期間中、毎事業年度につき一般管理費（人件費相当額を除く。）については3%、その他は1%の業務の効率化が要求されている。したがって、本校においても同様に財務と管理運営の効率化を図る。

この目標を達成するため、以下の項目について自己点検・評価を行う。

- ① 管理運営の現状と課題及び対応策（財務，管理）